

東京演劇アンサンブル公演 沖縄ミルクプラントの最后

協賛—ケンタウルの会
助成—文化庁文化芸術振興補助金
(舞台芸術創造活性化事業)

作—坂手洋二 演出—松下重人



舞台美術—香坂奈奈 音楽—菊池大成 音響—勝見友理(ステージオフィス) 照明—真壁知恵子 衣裳—竹内陽子
宣伝美術—竹内陽子・奥秋圭 方言指導—宮城康博 合唱指導—菊池大成 映像操作—永濱渉 舞台監督—入江龍太 制作—太田昭

東京演劇
アンサンブル
×
坂手洋二
ふたたび!

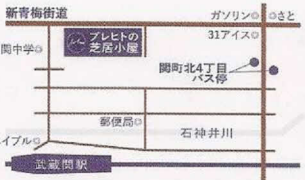
1995年…「阪神・淡路大震災」「オウム真理教事件」「住専問題」「村山改造内閣」…「沖縄少女暴行事件」「沖縄県民総決起大会」……

1995年7月。沖縄米軍基地(浦添キャンペンザー)内にあるミルクプラント工場。生産部監督の屋良直に引率されて工場見学を終えた新入社員、仲村秀喜、城間耕一が冷凍庫の大扉から出てくる。そしてミルクプラントで作られたミルクと市販の生乳を飲み比べる。このミルクは、米軍沖縄進駐から1996年まで、米軍人と家族および軍属を、そしてベトナム戦争に行く兵士を支えたミルクだった。基地の中ではこのミルクプラントだけがアメリカの民間企業の請負契約だったため、従業員たちは、MLC(米軍基地における日本人従業員の日本政府雇用制度。米軍のために働いているが「思いやり予算」によって日本政府から給料をもらっている)とは別の独自の組合を組織し、労働条件の改善、退職金の確保、契約改定をめぐって闘争をしていた。そのミルクプラントが閉鎖になる。彼らの最後の闘争が始まる。仲村秀樹の父、秀意はかつてミルクプラントの冷凍庫担当として働いていたが、かつての闘争のさなか不慮の事故で亡くなっていた……。父が闘ったものは何なのか? 父が守りたかったものは何なのか?

演出家・坂手洋二と出会った『荷(チム)』(2012年上演、鄭福根=作)から4年、作家坂手洋二と東京演劇アンサンブルの再会となる。沖縄を描くことにこだわり続ける作家自らが主宰する燐光群の初演(1998年)から20年。坂手洋二の作品行為をたどり、いま沖縄と向き合い、いま何を掴み取るか!

日時
2017.3.9(木) - 19(日)

会場
ブレヒトの芝居小屋



西武新宿線「武蔵園」駅北口より徒歩6分
電車○西武新宿線「高田馬場」駅より
単急直通/急行「上石神井」乗換1駅
バス○中央線「吉祥寺駅」北口バス乗場(発着の
全車にて「関町北4丁目」下車徒歩3分
西武池袋線「大泉学園駅」南口より吉祥寺駅行
「関町北4丁目」下車徒歩3分

3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	3/16	3/17	3/18	3/19
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
14:00				休						
19:00	★			演		★				

アフタートーク(予定)……10日=宮城康博さん 14日=坂手洋二さん
そのほか随時決まり次第、HP・Facebookでお知らせします。

●料金— 前売一般3800円 学生3000円 当日4500円
★Low Price Day 2500円
全席自由。開場は開演の30分前。入場は整理番号順。

●チケット申込—東京演劇アンサンブル
TEL:03-3920-8232 FAX:03-3920-4433
ticket@tee.co.jp



http://www.tee.co.jp

東京演劇アンサンブル/ブレヒトの芝居小屋
〒177-0051東京都練馬区関町北4-35-17 TEL—03-3920-5232
FAX—03-3920-4433 e-mail—tee@tee.co.jp